



Title	顔師古急就篇注音韻孝
Author(s)	大島, 正二
Citation	北海道大學文學部紀要, 22(1), 1-72
Issue Date	1974-03-13
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/33384
Type	departmental bulletin paper
File Information	22(1)_PL1-72.pdf



顏師古急就篇注音韻考

大 島 正 二

顔師古急就篇注音韻考

大 島 正 二

1. 0. 本稿は、音義類を資料として進めつつある唐代音韻史研究の一環として、漢・史游の『急就篇』4巻に付された顔師古（A. D. 581-645）の音注（A. D. 627-644 迄の或る年に成書。以下、『急就篇注』と呼ぶ）に反映する音韻的特徴の一端を明らかにしようとするものである。

顔師古音については、『顔師古『漢書音義』（A. D. 641 成書。以下、『漢書』と略称）に関する小論に於て、当該資料の範囲内で明らかとなった特徴的様相を示し、その整理結果に基づき、顔師古音の体系が『切韻』（A. D. 601 成書）の体系より遙かに単純なものであったらしいこと、そしてそこから導き出される推論として、Karlgren や周法高の唱える『切韻』長安方言説の疑わしいことを述べたが、そこでは得られなかった音韻的特徴を示す音注の例も『急就篇注』には見えるので、ここに別稿を用意し、上掲小論の補足を兼ねて報告することにした。

2. 0. 以下、『急就篇注』に見える音注の内、整理の基準とする『切韻』と体系上の「ずれ」を示すと解される例を声類・韻類の別に分類・整理して挙げる。用いる中国音韻学の術語は特に断わらない限り慣用に従う。

2. 1. 声 類

声類について、唐代關中音の体系を伝えていると説かれる慧琳『一切経音義』（A. D. 788-810 成書。以下、『慧琳』と略称）の反切からも窺える

特徴を示す例と然らざるものとに大別し、『漢書』と対照させつつ示す。

2. 1. 1. 『慧琳』の反切からも窺える特徴を示す例

(1) 唇音の重唇音と軽唇音との分岐を示すと解される例。同様の例は『漢書』にも見える。

『広韻』の体系では重唇音と軽唇音とは未分化であったために、帰字の声母が重唇音である反切の上字として、後に軽唇音化する声母（以下、軽唇音化声母と呼ぶ）が用いられている例が多いが、それ等が『急就篇注』で改められている例が見える。

并〔広〕 府盈／阜盈 (2. 11 オ)⁷⁾。鑣〔広〕 甫矯／彼驕 (3. 35 ウ)。阜〔広〕 府移／必彌 (3. 6 オ)。邳〔広〕 符悲／皮眉 (1. 33 ウ)。草〔広〕 房益／歩八 (4. 14 オ)。擗〔広〕 房益／頻亦 (4. 18 オ)^{*)}。便〔広〕 房連／頻綿 (2. 30 オ)。否〔広〕 符鄙／皮鄙 (4. 8 オ)。騰〔広〕 武項／莫項 (4. 4 オ)。

＊) 或は『広韻』に見える別音「普擊切《滂・錫》」と比較し、『昔甲』《錫》両韻通用の傍証例 (cf. 2. 2. 1. (5)) とすべきか。何れとも定め難いが今はここに置く。

このような例の見える反面、帰字の声母が重唇音である反切の上字に軽唇音化声母字が用いられている例も有る。

○『広韻』でも軽唇音化声母字が上字として用いられている例

貶〔広〕 方斂／悲儉 (4. 32 ウ)。縹〔広〕 敷沼／敷沼 (2. 14 オ)。辟〔広〕 房益／扶亦 (4. 27 オ)。便〔広〕 房連／房連 (2. 17 オ)^{*)}。璿〔広〕 武巾／武巾 (3. 18 ウ)。臧〔広〕 亡列／亡列 (3. 17 オ)。

＊)『広韻』は「珉」に作る。

○『広韻』では重唇音声母字が上字として用いられている例

繫〔広〕 邊孔／方孔 (2. 30 ウ)。絳〔広〕 莫報／亡到 (2. 12 ウ)。

(2) 正齒音三等系列に於ける全濁声母《船(牀₃)》《常(禪₃)》の混同を示す例。『漢書』に見える、《常》母字を《船》母字で切する1例について、それが、『広韻』の体系に拠れば、顔師古音と同じ声・韻類に属す仮借字

の求められることから、この1例のみを以てしては両声母の混淆は推測し
 難いと述べたが、⁸⁾『急就篇注』に下に挙げる例の見えることから、顔師古
 音に於ける両者の混淆は推測できそうである。

術〔広〕食聿《船》、…説文曰邑中 常出《常》、邑中之道曰術(4. 31
 道也… ウ)

盾〔広〕食尹《船》、干盾也 豎尹《常》、盾一名𢱿亦謂之干
 卽今旁排也(3. 29 ウ)

{純〔広〕常倫《常》 順倫《船》(2. 12 ウ)}⁹⁾

(3) 舌頭音声母《泥》と舌上音声母《娘》の混同を示す例。同様の例は
 『漢書』にも見える。

撓〔広〕奴巧《泥》、撓亂 女孝《娘》、焉于言無所屈撓也
 (2. 8 ウ)

(4) ¹⁰⁾Ⅱ韻類開口と結合する牙音の口蓋化を示すと解される例。¹¹⁾同様の例
 は『漢書』にも見える。

間〔広〕古覓／居覓(1. 14 ウ)

2. 1. 2. 『慧琳』の反切からは窺えない特徴を示す例

(1) 輕唇音声母《非》¹²⁾《奉》両母の音価上の明確な別を疑わしめる例。
 『漢書』には《非》《敷》《奉》3母の混同を示す例が見える。

復〔広〕房六《奉》、返也、重也； 音福《非》、老復丁者家有高年
 又也、往來也、安也、白也、告 則觸其子孫免賦役也(4. 35 オ)
 也

(2) 全濁声母の無聲音化・無声帶氣音化を示すと解される例。同様の例
 は『漢書』にも見える。

(2. 1) 全濁声母の無聲音化を示すと解される例

a. 《並仄》《幫》両母混同の例

別〔広〕皮列《並入》、異也、離 彼列《幫》、本文：變化迷惑別
 也、解也… 故新(4. 23 オ)

樽〔広〕補各《𩇑》、樽櫨、枿也 音薄《並入》、樽櫨柱上之枿也
(3. 38 ウ)

b. 《定平》《端》両母混同の例¹³⁾

綈〔広〕杜奚《定》、厚繪也

音帝^{*)}《端》、厚繪也 (2. 15 ウ)

*) 『急就篇注』には「音帝徒奚反」と見える。徒は《定》母字。

c. 《從仄》《精》両母混同の傍証例¹⁴⁾

{鍤〔広〕作木《精》

音族《從入》(3. 2 オ)}

d. 《崇(牀2)仄》《莊(照2)》両母混同の例

騶〔広〕側鳩《莊》

仕救^{*)}《崇去》、疾歩曰騶 (3. 45 ウ)

*) 『急就篇注』には「騶一作騶仕救反」と見える。騶は、〔広〕鋤祐《崇去》、馬疾歩也、奔也。

e. 《常(禪3)》《書(審3)》両母混同の例

貰〔広〕時夜《常》、賒也、貸也

傷夜^{*)}《書》、賒也 (2. 17 オ)

*) 『広韻』には「貰 舒制切《書・祭》、賒也、貸也、又時夜切」とは別に、「貰 神夜切《船・麻去》、貰賒也、貸也」も見える。或は後者を採り、《船》《書》両母混同の例とすべきか。何れとも定め難いが今はここに置く。

f. 《羣仄》《見》両母混同の例

檢〔広〕居奄《見》、書檢、印窠封
題也…

其閃^{*)}《羣上》、本文：簡札檢署槩
牘家 (3. 10 ウ)

(2. 2.) 全濁声母の無声帯気音化を示すと解される例

a. 《並平》《滂》両母混同の例

𧈧〔広〕敷悲《滂》、𧈧子

音邳^{*)}《並》、𧈧一名𧈧 (4. 5 ウ)

b. 《並仄》《滂》両母混同の例¹⁵⁾

𧈧〔広〕匹妙《滂》、強取…

頻妙、《並去》、𧈧亦劫也 (4. 29
オ)

c. 《定平》《透》両母混同の傍証例

{洮〔広〕土刀《透》

音桃^{*)}《定》(2. 21 オ)}

d. 《定仄》《透》¹⁶⁾ 両母混同の例

稌〔広〕他魯《透》、稌稻

音杜《定上》、稻有芒之穀總名也亦呼爲稌^{*)} (2. 19 ウ)

棣〔広〕特計《定去》、…又常棣、子似櫻桃、可食…

吐計《透》、棣常棣也其子熟時正赤色可啗俗呼爲山櫻桃… (2. 24 ウ)

*) 『急就篇注』には「音杜他戸反」と見える。杜は《定》母字。

e. 《從平》《清》¹⁷⁾ 両母混同の例

鬻〔広〕昨淫《從》、説文曰、大釜也…

村林《清》、甗一名甗亦謂之鬻… (3. 9 ウ)

{鱸〔広〕自秋《從》

千由《清》(1. 16 ウ)}

2. 2. 韻類

¹⁷⁾ 韻類について、声類と同様、『慧琳』の反切からも窺える特徴を示す例と然らざるものとに大別し、『漢書』と対照させつつ示す。

2. 2. 1. 『慧琳』の反切からも窺える特徴を示す例

(1) 《盍》《合》¹⁸⁾ 両韻(所謂「一等重韻」)通用の例。『漢書』には両韻、及び相当平・上声韻通用の例が見える。

榼〔広〕苦盍《盍》、酒器也

丘答《合》、盛酒之器 (3. 8 オ)

*) 或は「口」が誤まって写し伝えられたものか。

(2) 《夬》《皆》¹⁹⁾ 両韻(所謂「二等重韻」)通用の例。『漢書』には《夬》《佳》《皆》3 韻通用の例が見える。

犢〔広〕古喝《夬開》、犢牛

音界《皆開去》、劇牛也 (3. 47 ウ)

{薑〔広〕丑犢《夬開》

丑芥《皆開去》(2. 4 オ)}

(3) 《支》《脂》《之》¹⁹⁾ 3 韻通用の例(但し甲：乙の対立に混乱はない)。『漢書』にはこれ等 3 韻及び《微》韻の通用例が見える。ここでも甲：乙の

対立に混乱はない。

痕〔広〕 旨夷《脂開》、積血腫腫	音紙《支開上》、歐人皮膚腫起曰 痕 ^{*)} (4. 29 オ)
髀〔広〕 卑履《脂開上》、股外	必尔《支開上》、髀髀上也 (3. 28 ウ)
錘〔広〕 直垂《支合》、稱錘、或作 鎚	音椎《脂合》、鐵錘以鐵爲錘若今 人稱 (3. 31 ウ)
絺〔広〕 丑飢《脂開》、細葛也	救之《之》、絺一作絺、…絺謂 葛羸者 (2. 18 オ)

*) 『急就篇注』には「音紙又音支《章・支》」と見える。後者を『広韻』の「痕 章移切《章・支》、毀傷」と、前者を同書の「痕 旨夷切」と比較する。

(4) 《真乙》《欣》両韻通用の例。『漢書』には両韻、及び相当入声韻通用の例が見える。

靳〔広〕 居歊《欣去》、靳固、又姓… ^{*)}	居蒙《真去》、驂馬之帶也 (3. 36 ウ)
----------------------------------	---------------------------

*) 『説文』には「當膺也…」²⁰⁾と見える。

(5) 《昔甲》《錫》両韻通用の例。同様の例は『漢書』にも見える。

壁〔広〕 北激《錫》、説文云、垣也、 釋名曰、壁、辟也…	必亦《昔》、壁辟也 (3. 39 オ)
---------------------------------	---------------------

𦘔〔広〕 必益《昔》、𦘔衣、説文曰、 𦘔衣也 ^{*)}	音壁《錫》、黃氏本作𦘔注曰𦘔 衣也 (2. 28 オ)
---	--------------------------------

*) 『広韻』は「𦘔」に作る。

(6) 牙音を声母とするⅡ韻開口類の拗音化を示すと解される例。同様の例は『漢書』にも見える。(用例は、2. 1. 1. (4) を参照。)

2. 2. 2. 『慧琳』の反切からは窺えない特徴を示す例

(1) 《麻合》《佳合》両韻通用の例。²¹⁾同様の例は『漢書』にも見える(但

し『急就篇注』に見えるのと同じ語の別音を示す例)。

因に、『広韻』に見える通用規範は《麻》韻を独用と規定、『中原音韻』では《佳合》韻は《麻2》韻と一類(「家麻韻」)を成し、《佳開》韻は《泰開》《皆》《哈》《夬》韻など一類(「皆来韻」)を成す。

*)
 𧈧〔広〕烏蝸《佳合》、蝦蟆屬 烏爪《麻合》、本文：水蟲科斗
 𧈧蝦蟆(3.12オ)

*)『広韻』は「竜」に作る。

(2)《昔》《職甲》両韻通用の例。『漢書』には見えない例である。

因に、『広韻』に見える通用規範は《昔・清》韻は《麦・耕》《陌・庚》韻と同用と規定、『中原音韻』では一般に《清》《蒸》韻は《青》《庚3》韻などと共に一類(「庚青韻」)を成し、《昔》《職》韻は同音となって「齊微韻」に帰属する。

炙〔広〕之石《昔開》、説文曰、炮 之弋《職開》、炙謂炙之於火上也
 肉也、从肉在火上 (3.23ウ)

(3)《脂甲》《齊》両韻通用の例。²²⁾『漢書』には《支甲》《齊》両韻通用の1例(《来》母開口韻)が見える。

因に、『広韻』に見える通用規範は《齊》韻を独用と規定、『中原音韻』では《齊》韻は一般に歯音以外で止摂諸韻と同音になる。

毗〔広〕房脂《脂》、説文曰、人齋 歩迷《齊》、臆齊卽毗齊也
 也… (3.28ウ)

(4)牙音甲類合口字の合口要素の消滅を示すと解される傍証例²³⁾

{閏〔広〕戸萌《耕合》 獲耕《耕開》(2.11オ)}

(5)全清声母の上・去両声の混淆例²⁴⁾

𧈧〔広〕呼典《上》、在背曰𧈧… 許見《去》、在掖曰𧈧…(3.35ウ)

3.0. 以上、『急就篇注』に反映する顔師古音の特徴的様相を見た。²⁵⁾得られた例証数は少ないが、幾つかの例外を除き、何れも中古音系から近世北方音系への推移過程に於て見られる事象として説き得るものである。こ

こで明らかとなった特徴と『漢書』に反映する特徴とを併せ考えるならば顔師古音の体系は或る程度彷彿として来ようかと思う。殊に、『船』《常》兩母、『昔』《職》兩韻、『脂甲』《齊》兩韻の混同を示す例が見えるのは、『漢書』を補って大いに参考となる。中でも、『慧琳』の反切からは窺えない特徴を示す後二者は、梗・曾兩摂の合流、止・蟹兩摂の合流の先駆けと解することが許されるならば極めて興味深く、唐代音系を探る上で示唆的である。そして、顔師古音の体系が『切韻』の体系より遙かに単純であったらしいとの推測に大きな誤りはないと言えようかと思う。

唐代の音韻史研究の上で重要な資料の一つとして在る音義類については、『慧琳』を初め幾つかの整理・研究がこれ迄にも成され、多くの見るべき成果が挙げられているが、唯、そこでは仏僧によって著わされた一切経音義が専ら研究の対象とされ、これに対して、史籍などに付された唐儒等による音義注は音韻史資料として利用されることは少なく、概ね等閑に付されてきたのであった。それは、このような音義注が難字に対する音訓注釈を主たる目的とするものであるために、得られる音注例は断片的であって声韻全般を網羅するものではあり得ず、又、量的にも多くを期待することはできないのでそれ等による体系化は全く望めないと予想されたためであろう。併しながら、資料の性質を弁え、整理の方法に誤りなきよう注意して扱うならば、これ等は、これ迄の拙論が或る程度実証的に示すように、仏僧の音注に拠りつつ構築された唐代音韻史では映し出されない側面に光を当て得るものと言えよう。固より資料的価値からすれば、韻書などより遙かに劣る断片的な音注例であるから過大評価は厳に慎まねばならないが、これ等の余すところのない整理は、今後の唐代音韻史研究に与って参考とさるべき少なからぬ資料を提供し得ると思う。

註

- 1) 唐代に著わされた音義類には、大別して、仏僧による一切経音義と儒者等によって史籍などに付された音義注の2種が有る。ここで音義類と呼ぶのは専ら後者を指す。詳しくは、拙稿「史記索隱・正義音韻考」『東洋学報』55巻3号、1972. を参照。
- 2) 顔之推(『切韻』の編者の一人、『顔氏家訓』の著者)を祖父と仰ぐ。その日常話すところの言語は唐都長安に於ける士大夫階級のそれであったと推考される。伝の詳しくは、『旧唐書』巻七十三本伝、及び『新唐書』巻百九十八本伝を参照。
- 3) 『急就篇注』の成書時はその序にも見えず不詳であるが、その注叙に「秘書監弘文館學士上護軍琅邪郡開國子顔師古」とあること、顔師古が琅邪郡に封ぜられたのは太宗(在位: A. D. 627-650)の即位後であること(詳しくは顔師古伝を参照)の2点から、それを西暦627年から644年迄の或る年と推定しておく。尚、本稿で用いるテキストは「小学集函」所収の『玉海附刻本』である。この他必要に応じて「津逮秘書」所収本を併せ見た。
- 4) 「顔師古漢書音義韻類考」『言語研究』59号、1971. 「顔師古漢書音義の研究(上)」『北海道大学文学部紀要』17-1(資料表を主とする)、1969. 「同(下)」『同紀要』19-4(声類を扱う)、1971. 以下、『漢書音義』に関してはこれ等の拙論に拠る。
- 5) ここで得られる音注例は断片的であって、所謂「系聯法」を適用しても多くは期待できない。従って止むを得ざる次善の方法として『切韻』(以下、周祖謨『広韻校本附校勘記』中華書局、1960. を以て代用させ『広韻』と呼ぶ)に基準を求め、そこに音注例を投影させることによって現われる「ずれ」の内、体系上の「ずれ」を示すと解される例のみを採って考察の対象とする。詳しくは、拙稿「顔師古漢書音義韻類考」上掲論文、pp. 44-46 を参照。
- 6) 以下、『慧琳』に関しては、黄淬伯『慧琳一切経音義反切攷』歴史語言研究所專刊之六、1931. に拠る。
- 7) テキストに見える個所を、巻・頁・表(オと略記する)、裏(ウと略記する)の別、の順に記す。
- 8) 拙稿「顔師古漢書音義の研究(下)」上掲論文、pp. 14-15.
- 9) 『広韻』と体系上の「ずれ」を示す確証とは認め難いが、中国語音韻史の史的変遷に沿うと解される音注は傍証例として{ }に入れて補う。詳しくは、拙稿「顔師古漢書音義韻類考」上引論文、p. 15、脚注11を参照。尚、傍証例については意味に関する記述を省略し、資料表に譲る。
- 10) 本稿で用いる『広韻』韻類の類別の呼称の一つ。所謂「二等韻」はここに含まれる。詳しくは、拙稿「史記索隱・正義音韻考—資料表—」『北海道大学文学部紀要』21-2、1973. p. 29 を参照。
- 11) 『慧琳』に於ける二等韻開口と結合する牙音の口蓋化に関する推測の根拠については、拙稿「史記索隱・正義音韻考」上掲論文、註28を参照。

- 12) 輕唇音声母は、整理の拠り所とする『広韻』の体系では認められないが、記述上の便宜から本稿ではこれを設けてある。
- 13) 中古音の体系から近世北方音への推移の過程に於て、濁声母の平声は無声帶氣音化し、その仄声は無声音化すると一般に説かれるところに従えば、本例及び以下の(2.2) b. d. は例外となる。尚、本稿は中古音に於ける全濁声母は無氣音であったとする説に従う。cf. 李榮『切韻音系』語言學專刊第四種、1952。
- 14) 『急就篇注』に《從仄》《精》兩母が別音として並記されている例も見える。裁才代反《從・代》又音再《精・代》(3. 39 ヲ)。唯、『急就篇注』には、以下に示す如く、『広韻』の体系に拠ると又音が必ずしも別音を示すとは限らない例も見えるが、詳細は不明である。緘 馳二反又丈致反(何れも《澄》母《至》韻)(2. 15 ヲ)、緇 始移反又式支反(何れも《書》母《支》韻)(2. 15 ヲ)、簞 市緣反又市專反(何れも《常》母《仙》韻)(3. 5 オ)
- 15) cf. 註12
- 16) cf. 註12
- 17) 韻目は平声韻を以て上・去声韻をも兼ねさせる。但し、去声韻のみ韻及び入声韻はそれぞれの韻目を記す。
- 18) 因に、『広韻』に見える反切上字の系聯法による整理結果に拠れば、苦類と去類の別は、古類と居類の別などと同様に余り明確ではない。cf. 陸志章「證広韻五十一声類」『燕京學報』第25期、1939。など。
- 19) 拗音韻の内、等韻図に於て占める位置に即して言えば、四等欄に置かれる韻に見える示差の特徴を甲、三等欄に置かれる韻に見える示差の特徴を乙と呼ぶ。その別を示す必要の有る時は韻目に甲・乙の小字を付す。
- 20) 引用は、丁福保編『說文解字詁林及補遺』台湾商務印書館、1959。に拠る。
- 21) 『慧琳』、玄扈『一切經音義』に《佳》韻字の反切下字に《麻》韻字の用いられている個別的事例は見える。cf. 黃淬伯『慧琳一切經音義反切攷』前掲書、p.37、周法高「玄扈反切考」『歷史語言研究所集刊』20本上、1948。p.407。
- 22) 『急就篇注』に《脂甲去》《齊去》兩韻が別音として並記されている例も見える。卑 必至反《脂甲去》又博計反《齊去》(3. 5 オ)。或は伝統的反切をそのまま記したものか(cf.『広韻』博計切又必至切)。尚、註13を参照。
- 23) cf. 有坂秀世「唇牙喉音四等に於ける合口性の弱化傾向について」『国語音韻史の研究』(増補新版)三省堂、1944。所収。
- 24) 中古音の体系から近世北方音への推移過程に於て、全濁声母の上声は去声に転じ、全清声母の上声は上声に転ずると一般に説かれるところに従えば、本例は例外となる。
- 25) この他、《日》母字の反切下字として乙類字の用いられている例(枉 人禁反(2.26 ヲ)、翳 如約反(3.14 ヲ))。この他、顏師古音に於ける《章》母の cerebral 化が既にかけていたとの推測が許されるならば、臈 而灼反(3.24 オ)、餌 而志反(2.20 ヲ)

顔師古急就篇注音韻考

も)などは顔師古音に於ける《日》母の cerebral 化の有無について考察する上で参考となろう。cf. 三根谷徹「韻鏡の三・四等について」『言語研究』22・23号、1953, pp.71-72, 拙稿「顔師古漢書音義韻類考」前引論文、pp.55-56。

—— 資 料 表 ——

凡 例

1. この表は顔師古『急就篇注』に見える音注を『広韻』の体系に準拠して整理・配列したものである。

1. 1. 音注例にはテキストに見える個所を、巻・頁・表（オと略記）、裏（ウと略記）の別、の順に示す。

2. 配列の方法・順序は次の如くである。

2. 1. 韻類をⅠ・Ⅱ・ⅢA・ⅢB・Ⅳの5類に大別する。

Ⅰ韻類：東₁屋₁・冬沃・模・哈・泰・灰・痕没・寒（桓）曷（末）・豪・歌・戈₁・唐鐸・侯・登德・覃合・談盍、及び相当上・去声韻より成る。

Ⅱ韻類：江覚・佳・皆・夬・刪鎋・山黠・肴・麻₂・耕麦・貳洽・銜狎、及び相当上・去声韻より成る。

ⅢA韻類：支・脂・之・祭・真（諄）質（術）・臻櫛・仙薛・宵・麻₃・清昔・庚₃・陌₃・蒸職・幽・侵緝・塩葉、及び相当上・去声韻より成る。

ⅢB韻類：東₃屋₃・鍾燭・微・魚・虞・麌・欣迄・文物・元月・戈₃・陽葉・尤・嚴業・凡乏、及び相当上・去声韻より成る。

Ⅳ韻類：齊・先屑・蕭・青錫・添怙、及び相当上・声韻より成る。

尚、ⅢA韻類は、声母が唇・牙喉音（但し于母は除く）で韻図の四等欄に配されているものには甲の、同じく三等欄に配されているものには乙の小字を付して区別する。本表ではこれを声母に付して示す。

2. 2. 各韻類を十六韻攝に従い分類する。

2. 3. 各韻攝内に於て韻部に分類し、縦欄に韻目を平・上・去・入の順に配す。

2. 4. 各韻攝内に於て横欄に声母を配す。声母名及び配列の順序は次の如くである。

唇音

幫・滂・並・明

舌音	舌頭音	端・透・定・泥・来
	舌上音	知・徹・澄・娘
齒音	齒頭音	精・清・從・心・邪
	正齒音 二等	莊・初・崇・生・侯
	正齒音 三等	章・昌・船・書・常・日・羊
牙喉音		見・溪・羣・疑・曉・匣・影・于

3. 表中に音注を配する場所は、音注字の音が『広韻』の音韻体系に於て占める位置に拠る。それが帰字の音の『広韻』の音韻体系に於て占める位置と一致しない（即ち「ずれ」の見られる）場合には注記する。

3. 1. 注記は、

- (1) 当該音注がテキストに見える箇所、
- (2) 帰字の『広韻』に見える反切、
- (3) 帰字の韻図に占める位置（声母・韻目・開合・等位）、をこの順に示す。

3. 2. 『広韻』の体系と「ずれ」を見せる帰字の内、

- (1) 意味上それ等の仮借字と解されるものが求められる場合にはその仮借字を示す。その際は*印を当該字の左肩に付して他と区別すると共に、そのように解する典拠となった書目を記す。
- (2) 固有名詞である場合には〈人名〉、〈地名〉などと付記する。
- (3) 『広韻』には見えない又音と解される場合にはその旨をテキストに見える注記に従って付記する。
- (4) 本論で扱われている例については当該字の本論で見える場所を矢印の次に付記する。

4. 『広韻』に見えない文字は { } 内に入れる。又、『広韻』で別の字体に作るものは。印を左肩に付して示し、その旨を当該字の表中に見える個所に注記する。

I 韻 類

通 攝

	東	董	送	屋
幫 明		方孔 幫 2.30才		音木 驚 4.1才
端 定	音東 凍 4.14才 大東 簞 3.16才	徒孔 桶 3.7才		音瀆 贖 2.13才
來				音鹿 漉 3.5才
精		作孔 總 3.15才		
見 羣 匣	古紅 缸 3.4才 音工 缸 3.2才 渠弓 {窮} 4.13才		音貢 匱 3.7才	音谷 穀 3.33才 胡谷 穀 1.36才 2.15才

	冬		宋	沃
匣				胡篤 鵠 4.1才

遇 攝

	模	姥	暮	

透		他戶 稌 ¹⁾ 2.19ウ	他故 吐 4.9ウ	
定		音杜 稌 2.19ウ		
		肚 3.28才		
		韋 3.35ウ		
泥	音奴 駑 3.45ウ	奴古 弩 3.31才		
來	音盧 縷 3.10才 蘆 3.23才 櫨 3.38ウ		音路 路 ²⁾ 4.12才	。宏韻「露」15作6
精		音祖 組 2.18ウ		
清			七故 酢 ²⁾ 2.22才	
			音醋 酢 ³⁾ 3.24才	
見	攻乎 瓜 ⁴⁾ 4.15才 音沽 酤 3.24ウ 音姑 棒 2.22才 音孤 觚 1.36ウ 菰 4.28才	音古 穀 3.45ウ		
疑	音吾 醵 4.5ウ			
匣		音扈 雇 4.3ウ		

(1) 稌 (2.19ウ) [本] 他魯切 (透曉合-) 又他胡切 → 2.1.2. (2.2.) d.

(2) 酢 (2.22才, 蕪荑鹽豉醢酢醬) [本] 在各切 (從鐸開-)

(3) 酢 (3.24才, 大酸謂之酢) [本] cf. (2)

(4) 瓜 (4.15才 < 又音 >, 土瓜一名菲) [本] 古華切 (見麻合-) 二

蟹 撮

	台	海	代	
透 泥	音台 鮐 3.12ㄅ		他代 貸 2.17ㄆ 乃代 耐 2.30ㄆ	
來	音來 獐 4.5ㄅ			
精 從 心	音哉 栽 3.28ㄆ		音再 裁 ¹⁾ 3.39ㄆ 才代 栽 3.39ㄆ 在代 裁 3.17ㄆ 先代 塞 ^{4.17ㄆ} 4.37ㄆ	
羊		弋亥 改 ²⁾ 3.19ㄆ		
見 溪 曉 匣	音該 毅 ³⁾ 3.19ㄆ	音海 醃 2.22ㄆ	苦代 欸 4.9ㄆ 鎧 3.31ㄆ 胡槩 効 4.24ㄆ	

			泰開	
滂			音貝 沛 3.47ㄆ	
定 泥			音大 欽 4.27ㄆ 奴帶 奈 2.24ㄆ	

清			音蔡 {鷄} 4.3才	
---	--	--	-------------	--

	灰	賄	隊	
明	音枚 致 3.18才	○宏韻「致」に作る		
端	丁回 堆 4.3ウ		得悔 碓 3.40ウ 音對 碓 3.40ウ	
定	大回 魁 1.20才 音頽 隤 3.40ウ	徒猥 {鍾} 3.3才		
來			力對 来 3.42才	
精			子內 卒 ⁴⁾ 3.46才	
清		千賄 灌 4.7ウ	千對 碓 3.41才	
溪	口回 悝 1.22ウ		五對 碓 3.40ウ	
疑			戸對 績 3.15才	
匣	音回 槐 3.44ウ 槐 3.18才			
影		烏賄 猥 4.30才		

			泰合	
幫			音貝 狝 3.47ウ 4.32ウ	
滂			普外 狝 ⁵⁾ 3.47ウ	

見			古外 膾 ^{3.23ウ} 膾 ^{3.40才} 音膾 膾 ^{3.40才} 音會 薈 ⁶⁾ _{2.21才}	
---	--	--	---	--

- (1) 栽 (3.39ウ <又音>、栽築牆也) [広] 祖才切 (精旨開一) 又昨代切
 (2) 改 (3.19ウ、…以金玉及桃木刻而爲之一名殺改…) [広] 詳里切 (邪止開四)
 又羊己切
 (3) 殺 (3.19ウ、cf (2)) [広] 苦哀切 (溪旨開一)
 (4) 卒 (3.46才、辨羊未卒歲也) [広] 子幸切 (精術合四) 又臧沒、倉沒ニ切
 (5) 犛 (3.47ウ、犛ニ歳牛也) [広] 博蓋切 (幫泰開一)
 (6) 薈 (2.21才、薈一名鴻薈) [広] 烏外切 (影泰合一)

臻 撮

	痕	很	恨	
見 溪	音根 跟 ^{3.27才}	口很 壘 ^{3.4才}		

	魂	混	恩	沒
幫	音奔 賁 ^{3.32才}			
端 定	都昆 敦 ¹⁾ _{2.6ウ} 徒渾 𩇑 ⁴⁾ _{4.25ウ} 音屯 敦 ⁴⁾ _{4.37才}	。広韻「𩇑」に作る 徒本 筭 ^{3.5才}		
來	盧昆 論 ⁴⁾ _{4.19才} _{4.27才}			

精	祖昆 尊 2.27才 縛 2.27才			
清				千忽 猝 4.31才
見	古渾 禪 2.26才			
溪	苦門 髡 4.27才 口昆 髡 1.25ウ			
曉	虎渾 葦 ²⁾ 2.21ウ			
匣		胡本 焜 3.36ウ	胡困 溷 3.40ウ 4.33才	

(1) 敦 (4.37才, 本文: 敦煌) [ㄉㄨ] 都昆切 (端魂合一) 又都困, 都回二切。

* 燉 [ㄉㄨ] 徒渾切 (定魂合一) cf. 段玉裁『說文解字段氏注』

(2) 葦 (2.21ウ, 薑禦溼菜也辛而不葷故齊者不撒焉) [ㄉㄨ] 許云切 (曉文合三)

山 攝

	寒	旱	翰	曷
明	莫干 蔓 ¹⁾ 2.23ウ			
端	多安 禪 2.26ウ 音單 禪 2.27才	音亶 瘡 ²⁾ 4.9ウ		
定		徒旦 𪔐 3.7ウ 音但 𪔐 3.7ウ		
泥			乃旦 難 4.25才	
來				來葛 刺 3.1才

心		思但 餓 2.24ウ		
見	音干 杆 ³⁾ 3.2ウ	工旱 稈 3.48才	吉旦 衍 ⁴⁾ 1.25才	
疑				五葛 枿 4.28才
匣	音寒 邯 4.32ウ		侯吁 悍 4.31才	音曷 鷄 3.47才
影				烏葛 闕 2.4才
				於葛 闕 2.9ウ
				音遏 額 3.26ウ

	桓	緩	換	末
幫			音半 鞞 3.35ウ	
滂			普半 胖 3.23才	。広韻「胖」に作る
並			薄半 畔 3.42才	
明	謨官 謨 4.28ウ		莫半 縵 2.12ウ	音末 沫 3.36才
			幔 3.15才	
透				他活 稅 3.31ウ
定	徒端 𪛗 4.3才	。広韻「𪛗」に作る		
來				來奪 掄 4.2ウ
精	借官 鑽 3.1ウ	音纂 簪 ⁵⁾ 3.8才		
從	在官 攢 ⁶⁾ 3.32才			
心			蘇判 蒜 2.23才	
見	音官 莞 3.14ウ	音管 韞 3.33才	工喚 矐 1.20才	古活 枯 4.13ウ

			觀 1.28ウ	音括 舌鳥 4.2才
溪	音寬 𦉰 2.28ウ			
曉	火官 謹 1.36才			
	音懂 𦉰 4.6才			
匣	胡官 𦉰 ⁷⁾ 4.16才			胡闊 活 3.12ウ
	戶官 𦉰 3.23才			
	音完 莞 3.14ウ			
	垣 ⁸⁾ 3.39才			
	音丸 紉 2.14才			
影		烏管 盪 3.6ウ	烏貫 挽 3.27ウ	
		挽 3.6ウ	腕 3.27ウ	

- (1) 蔓 (2.23ウ, 菁蔓菁也一曰冥菁亦曰蕪菁又曰芴菁) [ㄘ] 母官切 (明桓合一)
又無販切
- (2) 瘧 (4.9ウ, 瘧熱黃病也) [ㄘ] 都寒切 (端寒開一) 又丁可, 丁佐二切。* 瘧
[ㄘ] 多旱切 (端旱開一) cf. 段玉裁『說文解字段氏注』
- (3) 杆 (3.2ウ, 其形若杆) [ㄘ] 古案切 (見翰開一)
- (4) 衍 (1.25才, <人名>) [ㄘ] 苦吁切 (溪翰開一) 又空旱切
- (5) 簪 (3.8才, 搏搯裨撥匕箸簪) [ㄘ] 作含切 (精覃開一) 又側吟切
- (6) 攢 (3.32才, 柲攢也) [ㄘ] 則吁切 (精翰開一) 又在玩切
- (7) 藿 (4.16才, …藿菌一名藿蘆生東海池澤…) [ㄘ] 古玩切 (見換合一)
- (8) 垣 (3.39才, 泥塗壘壁垣墻) [ㄘ] 雨元切 (于元合三)

效 攝

	豪	皓	号	
幫		音保 {𦉰} 4.2才		

明			亡到 絳 2.12ウ 音毫 絳 2.12ウ	
透 定	吐高 韜 3.25ウ 徒高 濤 1.17ウ 徒刀 壽羽 4.2ウ 韜 3.21才 音桃 洮 ¹⁾ 2.21才		徒到 翺 4.2ウ	
來	音勞 醪 3.24ウ	音老 輅 3.34ウ 音潦 輅 3.33才		
精		子老 澡 3.17才		
見 溪 疑 曉	苦高 尻 3.28ウ 音救 螯 3.13才	古老 豪 3.48才	呼報 好 1.14ウ 音耗 好 3.18才	
匣 影	音豪 號 4.29ウ	音鎬 鯨 3.13ウ 音襖 慶 4.6才		

- (1) 洮 (2.21才、甘豆羹以洮米泔和小豆而煮之也) [玄] 土刀切 (透豪開一) 又
餘昭切 → 2.1.2. (2.2.) C.

果 攝

	歌	哿	箇	
幫		波我 𪛗 ¹⁾ 3.6才 3.40ウ	甫佐 𪛗 ²⁾ 3.6才	
明			莫賀 𪛗 ³⁾ 3.41才	
定	徒何 𪛗 1.34ウ			
來	音羅 𪛗 ⁴⁾ 4.4ウ			
從	才何 𪛗 2.23才			
溪	音珂 𪛗 2.6才	枯我 𪛗 2.6才		

	戈	果	過	
明			音摩 𪛗 3.41才	
透	禿頗 𪛗 ⁵⁾ 3.6ウ			
定		徒果 𪛗 ⁶⁾ 3.47才		
		特妥 {𪛗} 3.3才		
		音墮 {𪛗} 3.3才		
泥			乃貨 𪛗 2.20ウ	
來	來戈 𪛗 3.2才	郎果 𪛗 2.25才 𪛗 4.14才		
精			子臥挫 3.11ウ	
清			采臥莖 3.48才	
從			才臥坐 3.22ウ 4.30才	

見	工禾 鍋 3.2才 古禾 過 1.34ウ 4.36ウ	音果 裹 2.18才		
溪		口果 穎 1.16ウ		

- (1) 簸 (3.6才、箕可以簸揚及去糞帝…、3.40ウ、碓磑扇積吞簸揚) [玄] 布火切 (幫果合一) 又 補過切
- (2) 簸 (3.6才、cf. (1)) [玄] cf. (1)
- (3) 磑 (3.41才、碓所以舂也磑所以磑) [玄] 撲臥切 (明過合一)
- (4) 贏 (4.4ウ、…似馬而有青色一曰距虛似贏而小) [玄] 落戈切 (來戈合一)
- (5) 穉 (3.6ウ、穉杆繁葉枯閉堅) [玄] 他果切 (透果合一)
- (6) 穉 (3.47才、穉犢豕亦謂之穉) [玄] 悅吹切 (羊支合四) 又 羊捶切

宕 攝

	唐開	蕩開	宕開	鐸開
幫 滂 並				音博 膊 3.27才 普各 萼 2.23ウ 膊 3.24才 粕 3.48才 音薄 樺 ¹⁾ 3.38ウ 韞 3.35ウ
端 透 定	音唐 錫 ²⁾ 2.24ウ		丁浪 當 4.30ウ 裳 3.9ウ	他洛 囊 2.16ウ 大各 韞 2.31才

				度 4.32才
				徒各 度 1.25ウ
				待洛 度 3.39ウ
來	力當 郎 2.20ウ 盧當 郎 2.20ウ			音洛 樂 4.35才 音落 答 3.6才
精 清 從 心	子桑 牂 3.45ウ 音倉 鷁 4.2ウ 音桑 {轉} 3.33才	。広韻「牂」に作る	徂浪 藏 3.28ウ	在各 柞 3.11ウ 竿 3.11ウ 先各 鞞 2.31才
溪 疑 曉 影	苦岡 濂 3.33才 音康 {轉} 3.32ウ 五郎 印 2.9才 顏當 印 2.29才		鳥浪 盎 1.17ウ 3.8ウ	五各 鄂 3.37ウ 呼各 郝 1.18ウ 音惡 堊 3.39才

	唐合	蕩合	宕合	鐸合
見			工曠 廣 ³⁾ 1.28才 音曠 續 2.16ウ 。絳 2.16ウ	。広韻「續」に作る
匣	音黃 瓊 3.18ウ			胡郭 穫 3.43才

- (1) 樽 (3.38ウ) [広] 補各切 (聲鐸開一) × 蒲草、弱戟ニ切 → 2.1.2.(2.1.)a.
 (2) 錫 (2.24ウ <×音>、本文: 橐古瓜棣黻飴錫) [広] 徐盈切 (邪清開四)。
 cf. 沈兼士『広韻声系』「案錫、元泰定本、明内府本及符山堂本均作錫、又說文錫、
 段注改作錫」
 (3) 廣 (1.28才、…春秋左氏傳曰廣有一辛…) [広] 古是切 (見滂合一)

流 摂

	侯	厚	候	
並		音部 𩇛 3.9才		
端	丁侯 兜 3.31才			
	音兜 𩇛 4.10才			
定	大侯 綸 2.17才			
來	洛侯 婁 3.46ウ 筆 3.6才 音婁 筆 3.6才	洛口 𩇛 3.9才	音漏 癭 4.9ウ	
清			千豆 湊 3.33才	
心		音叟 {𩇛} 3.5ウ	先豆 瘰 4.9ウ 嗽 4.9ウ	
見	古侯 筆 3.5才		工豆 遼 2.11ウ	
	音鈎 句 1.33才		古候 購 4.29才	
疑		我后 𩇛 ⁰ 3.27ウ 音偶 𩇛 3.28才		

匣	音侯 鍤 3.30才			
影	焉侯 歐 2.5ウ	於口 歐 4.30才		
	烏侯 區 2.3ウ			
	謳 3.22才			

(1) 拇 (3. 27ウ、拇大指也) [ㄉ] 莫厚切 (明厚開一)

曾 攝

	登開	等開	嶺登開	德開
端	丹增 鐙 ¹⁾ 3.2ウ 音登 鐙 ²⁾ 3.2ウ 登 3.4ウ			
來	盧登 梭 1.13ウ			音勒 肋 3.28才
匣				胡得 効 4.24ウ

(1) 鐙 (3. 2ウ、…其形若杆而中施釭有榑者曰鐙…) [ㄉ] 都鄧切 (端嶺開一)

(2) 鐙 (3. 2ウ、cf. (1)) [ㄉ] cf. (1)

咸 攝

	覃	感	甚	合
透			○ㄉ韻「市」ハ作る	他合 鎡 4.27才 他匣 鞞 2.28才 音踏 鞞 2.28才

定	徒南 譚 2.5ウ 鐘 3.30才			音沓 楷 3.38ウ
泥				音納 輶 3.34才
來		慮感 壞 2.6ウ		
心	蘇含 慘 3.47ウ			速沓 鞞 2.29才
見		音感 囹 3.7才	古暗 紺 2.14ウ	工沓 合 3.7ウ
溪		苦感 輓 2.6才		丘答 榼 ¹⁾ 3.8才
匣		口感 坎 2.6ウ		
影	烏含 鶻 4.3ウ	下感 頷 4.1才	胡暗 含 ²⁾ 1.2才	

	談	敢	闕	盍
端	丁甘 擔 3.5才 3.43ウ		丁濫 擔 3.43ウ	
透		他覽 莢 3.23才		
定	徒甘 談 1.32ウ	他敢 莢 4.12才		
泥	乃甘 聃 ³⁾ 1.34ウ			
來				音臘 鐵 3.2ウ
見	音甘 泔 2.22才			

山 攝

	刪開	潛開	諫開	鎔開
生	音刪 疝 4.2ウ		音諫 疝 4.2ウ	
見			古鴈 鎔 3.4才 音諫 鎔 3.4才	
匣				音轄 鎔 3.4才 音牽 轄 3.3才
影		於諫 鷄 4.3才 音晏 鷄 4.3才		

	山開	產開	禪開	黠開
並				步八 莧 ¹⁾ 4.14才
澄			丈莧 綻 2.27ウ	
生				音殺 極 2.23才
見			居莧 閑 1.14ウ	
溪				口黠 擊 4.14才

	刪合	潛合	諫合	鎔合
明			音慢 謾 4.28ウ	
見	古頑 綸 2.18ウ			

疑 匣			五患 蕪 3.23才 音患 蓼 4.24ウ 音宦 蓼 1.13ウ	
--------	--	--	--	--

	山合	産合	襴合	黠合
幫				博拔 捌 3.43才
莊				側滑 札 ²⁾ 3.10ウ

- (1) 蕪 (4.14才、枯樺一名果蕪…以爲草挈非也) [ㄹ] 房益切 (並音開四)
 (2) 札 (3.10ウ、簡札檢署繫牘家) [ㄹ] 側八切 (莊黠開二)

效 撮

	肴	巧	效	
娘			女孝 撓 ¹⁾ 2.8ウ	
初 生	山交 筊 3.5ウ 筊 3.5ウ	初狡 矯 3.13ウ		
見 匣	胡交 笑 3.21ウ	古卯 狡 3.46ウ 功巧 狡 ²⁾ 2.26ウ	胡孝 校 1.15ウ	

- (1) 撓 (2.8ウ) [ㄹ] 奴巧切 (泥巧開二) 又呼毛切 → 2.1.1.(3)

- (1) 檣 (3.8才) [ㄏ] 苦盡切 (溪盡開一) → 2.2.1. (1)
 (2) 含 (1.21才、…春秋稱天王使榮叔來含…) [ㄏ] 胡男切 (匣章開一)
 (3) 聃 (1.34ウ、祝氏鄭祝聃之後也…) [ㄌ] 他酣切 (透談開一)

II 韻類

江 攝

	江	講	絳	覺
幫				邦角 駮 3.45才
並	皮江 龐 1.35才	平項 蚌 3.18才		
明	莫江 駮 3.45ウ	莫項 鸛 4.4才		
知				竹角 啄 3.47ウ 直角 濯 3.17才
見	古雙 鉦 3.4才 音江 杠 3.14才 3.35才		。ㄏ韻「慤」に作る	己角 慤 1.23ウ 音角 塢 ¹⁾ 4.24ウ 桷 3.38ウ
匣	胡雙 {坂} 3.9ウ		侯降 {坂} 3.9ウ	

- (1) 塢 (4.24ウ、…獄之言塢也) [ㄏ] 苦角切 (溪覺開二)

蟹 攝

	佳開	蟹開	卦開	
並		簿蟹 罷 2.1ウ		
匣		音蟹 解 2.9ウ		

	皆開	駭開	怪開	
並	音排 俳 3.22才			
徹			丑芥 薑 ¹⁾ 2.4才	
莊			側界 瘳 4.9才	
見	古諧 街 4.3/ウ		音界 犗 ²⁾ 3.47ウ	
匣			音皆 鵠 4.3ウ	
			戸界 賁 2.21才	

	佳合	蟹合	卦合	
匣			胡卦 絀 2.16才 畫 3.17才	

	皆合	駭合	怪合	
匣	音懷 懷 3.44ウ			

			夬	
見			加敗 犗 3.46才	

(1) 薑 (2.4才, 齊公孫薑 <人名>) [玄] 丑犗切 (徹夬開=) → 2.2.1. (2) (傍証例)

(2) 犗 (3.47ウ) [玄] 古喝切 (見夬開=) → 2.2.1. (2)

- (2) 校 (2. 26ウ <ヌ音>、袴謂脛衣也、大者謂之倒頓、小者謂之校袴...) [玄] 古了切
(見條開四)

假 掇

	麻開	馬開	禡開	
幫	音巴 𧈧 3.46ウ	博下 把 3.43才	音霸 把 ¹⁾ 3.4ウ 3.21才 3.29ウ 3.30ウ 3.32才 3.42才 3.46才	
並	蒲巴 杷 3.43才			
明	音麻 𧈧 3.12才	○玄韻「𧈧」に作る		
見	古瑕 𧈧 3.46ウ	古雅 夏 ²⁾ 1.39ウ		
	古牙 痂 4.7ウ	加雅 痂 4.8ウ		
	音加 𧈧 4.7才			
	駕 1.21ウ			
	葭 3.23才			
曉		呼雅 聞 3.6ウ		
匣	乎加 {緞} 2.28才	戶把 踝 ³⁾ 3.29才		
	音遐 {緞} 2.29才			
	𧈧 3.12才			
	𧈧 3.12ウ			
	𧈧 ⁴⁾ 4.8ウ			

	麻合	馬合	禡合	
知	陟瓜 𧈧 3.31ウ			

匣	下瓜 𦵏 ⁵ 3.42才		
影	烏瓜 𦵏 ⁶ 3.12才	〇広韻「𦵏」に作る	

- (1) 把 (3.4ウ、…大而有把手執以行謂之筴…、3.21才、…韜實把鼓也…、3.29ウ、…鋌鐵把小牙也…、3.30ウ、…鐔劒刃之本入把者也、3.32才、…一曰柅者總言牙戟之把也、3.42才、古者倭作末今之曲把茶欽其遺象也、3.46才、以爲刀子把爾雅曰辨如羊卽謂此也) [広] 博下切 (幫馬開二)、『唐韻』(劉復等編『十韻彙編』所收) には「必駕反又北下反」と見える。
- (2) 夏 (1.39ウ、晉有郤豫郤師齊有郤歆那夏…〈姓〉) [広] 胡雅切 (匣馬開二) 又 胡駕切
- (3) 蹠 (3.29才、蹠足之内外蹠也) [広] 胡互切 (匣馬合二)
- (4) 痕 (4.8ウ、痕癢也) [広] 古牙切 (見麻開二) 又古足、古誦ニ切
- (5) 𦵏 (3.42才、束手耕曲木也古者倭作末今之曲把茶欽其遺象也) [広] 戸戈切 (匣戈合一)
- (6) 𦵏 (3.12才) [広] 「𦵏」烏鳩切 (影佳合二) 又戸鳩切 → 2.2.2. (1)

梗 攝

	庚開	梗開	映開	陌開
並	音彭 榜 4.25ウ			
明	音盲 𦵏 ^D 3.39才			莫白 𦵏 3.1才 音陌 𦵏 2.27ウ
徹	丑庚 {蹠} 3.35才			
澄	丈庚 {蹠} 3.35才			
崇				仕客 𦵏 3.27才
見	工衡 更 4.23才 古行 杭 2.19ウ	古杏 梗 4.15ウ 音梗 𦵏 3.10才		

匣	音衡 脰 ^{3.29才}		下孟 行 ^{4.20才} 下更 脰 ^{3.29才}	
---	-----------------------	--	--	--

	耕開	耿開	諍開	麥開
幫			布諍 迸 ^{4.29才}	布麥 擘 ^{2.16才}
莊 初				音責 憤 ^{3.25ウ} 初責 憤 ^{3.25ウ}
見 溪 匣 影	口耕 鏗 ^{1.32ウ} 獲耕 閔 ^{2.11才} ²⁾ 烏莖 馨 ^{3.8ウ}	古幸 耿 ^{2.7才}	○広韻「厄」に作る ○広韻「貌」に作る	音厄 梔 ^{3.34ウ} 貌 ^{3.46ウ}

	耕合	耿合	諍合	麥合
見				俱獲 蝨 ^{3.12才}

- (1) 束 (3.39才、梁屋上梁也一名束厖) [本] 莫郎切 (明唐開-) 又武方切
 (2) 閔 (2.11才、…漢有閔孺く姓) [本] 戸萌切 (匣耕合ニ) → 2.2.2.(4)

咸 撮

	咸	賺	陷	洽
初				楚洽 插 ^{3.43才}

見				古洽 裕 2.26才
匣	音咸 誠 4.34才			
影		於減 黯 1.16ウ		

ⅢA 韻 類

止 撮

	支開	紙開	寘開	
幫甲	必彌 卑 3.6才	并弭 篳 3.6才		
		音俾 篳 3.6才		
		必 ⁰ 尔 髀 ⁰ 3.28ウ	。広韻「余」に作る	
乙	彼宜 罷 ² 2.9ウ			
滂甲		匹婢 疔 4.7ウ		
乙	音披 鉞 3.30才			
	帔 2.26才			
並甲		音婢 庠 3.9ウ 3.21ウ 3.41ウ 4.3ウ 4.5才		
乙	音疲 罷 2.1ウ			
明甲		莫 ⁰ 尔 芊 1.19ウ	。広韻「余」に作る	
		弭 3.31才		
乙	音眉 {媚} 3.41ウ			
來	力知 驪 3.45才			
徹	音离 {璃} 2.24才			

精	子移 帑 2.17才 音貨 帑 2.17才			
清			七賜 刺 4.10ウ	
從			材賜 漬 2.16ウ	
			音漬 皆 4.10才	
心	息移 據 3.8才			
生	山奇 筵 3.6才	所綺 筵 3.6才		
章	音支 疚 ³⁾ 4.29ウ	音紙 疚 4.29ウ	之豉 斛 3.8才	
	庖 3.7ウ	音只 軹 3.34才		
昌	充支 眇 4.9ウ	音侈 鈔 3.9ウ		
書	式支 纈 2.15ウ			
	鉗 3.29ウ	。広韻「纈」に作る		
	始移 纈 2.15ウ			
	音施 纈 2.15ウ			
	鉗 3.29ウ			
常	上支 匙 3.8ウ			
羊	羊支 鉞 3.3ウ	。広韻「鉞」に作る	以豉 易 3.25才	
	匱 3.3ウ		弋豉 易 2.30才	
	音移 訖 4.28ウ	。広韻「訖」に作る		
溪乙	丘宜 崎 3.35才	去倚 綺 2.15才		
羣甲	祈支 軹 3.33才			
乙	巨宜 魑 3.19才	渠綺 伎 3.22ウ	其寄 騎 3.21ウ	

	音奇 魁 3.19才		
疑乙	音儀 轅 3.34才	音蟻 轅 3.34才	
影乙	於奇 椅 3.44才	於綺 倚 2.5ウ	
于		于彼 薦 ⁴⁾ 1.36ウ	

	脂開	旨開	至開	
幫甲		音比 枇 3.41才	必寐 庇 2.2才	
			界 3.6才	
			必至 算 ⁵⁾ 3.5才	
			音庇 痺 4.8才	
乙			音秘 秘 3.31ウ	
			費 1.25ウ	
並甲	音毗 臍 3.28ウ		頻寐 比 3.15ウ 3.42才	
	貌 4.5ウ			
乙	皮眉 邳 1.33ウ	皮鄙 {巾} 2.16ウ		
	音邳 豸 ⁶⁾ 4.5ウ	否 4.8才		
明乙			音媚 魅 3.19ウ	
澄	音落 鮐 ⁷⁾ 3.12ウ	。広韻「落」に作る	直利 稚 1.24ウ	
			馳二 緻 2.15ウ	
			丈致 緻 2.15ウ	
精	音咨 粲 2.20才			
心			音四 柶 3.8ウ	

顏師古急就篇注音韻考

邪		音兕 羗 3.45ウ	獠 4.5ウ	
章	音脂 砥 4.20才	音旨 砥 4.20才	音摯 熱 4.3才	
日			音二 槓 3.44ウ	
見乙		音几 磨 4.5ウ	京媚 馬 ⁸⁾ 3.45才	

	之	止	志	
幫甲		并止 {牝} 2.16ウ		
來	力之 麓 2.7ウ			
徹	敕之 絳 ⁹⁾ 2.18才			
澄		音峙 痔 4.9ウ	直吏 植 3.39ウ	
精		則仕 滓 ¹⁰⁾ 2.16ウ		
心		絲里 泉 2.18才	息寺 思 4.1才	
			先寺 筭 3.6ウ	
邪			音飼 食 ¹¹⁾ 3.1ウ	
莊	音 ¹²⁾ 緇 ¹³⁾ 車 ¹⁴⁾ 3.32ウ	音第 滓 3.48才	側吏 戡 3.23ウ	
初	。広韻「緇」に作る 。広韻「輶」に作る		初吏 廁 ¹⁵⁾ 3.40ウ	
日			而志 鉅 2.20ウ	
羊	以之 飴 2.24ウ	弋止 已 3.19ウ		
見乙		居擬 己 3.19ウ		

羣乙 曉甲	音其 騏 3.45ウ	音紀 己 ^{1.20才} ^{1.22ウ} ^{1.37才}	許志 喜 ⁽²⁾ 1.14ウ	
----------	------------	---	------------------------------	--

	支合	紙合	眞合	
幫乙	音碑 襪 2.26才			
澄			直睡 垂 3.8ウ	
精		子藥 腎 4.12ウ		
初	楚危 穰 ⁽³⁾ 3.38ウ			
昌		之藥 捶 4.26才		
羊	弋筌 獮 3.47才			
曉乙		音毀 檄 4.12ウ		
影乙	音萎 痿 4.8才			

	脂合	旨合	至合	
並乙		音圯 {巾} 2.16ウ		
來	力追 纍 3.10才	力軌 壘 3.44才 音壘 蠅 4.6才	。広韻「鷗」に作る	
澄	直追 椎 3.2ウ 音椎 鍾 ⁽⁴⁾ 3.31ウ			

心			息逢 崇 4.16ウ	
生	音寒 穰 3.38ウ		所類 帥 1.16才	
章	職追 鍾 3.1ウ			
	之誰 馬 3.45才			
常	音誰 誰 3.45才			
羊	音惟 遺 1.14才			
見乙	音龜 驪 3.45才		音槐 驪 3.45才	
溪乙			丘位 驪 3.26才	
于		音消 疴 4.17ウ		

- (1) 穰 (3.28ウ) [本] 卑履切 (幫旨開四) 又 傍禮切 → 2.2.1.(3)
- (2) 罷 (2.9ウ、陶熊罷) [本] 彼烏切 (幫支合三)
- (3) 疴 (4.29ウ) [本] 旨夷切 (章脂開三) 又 章移切 → 2.2.1.(3)
- (4) 薦 (1.36才、…其後杜伯之孫曰士薦爲晉司空薦爲子士穀…) [本] 于偽切 (于寘合三)
- (5) 算 (3.6才 <又音>、今謂之篩大者曰筭小者曰算) [本] 博計切 (幫審開四)
- (6) 豕 (4.5ウ、豕一名豕…) [本] 敦悲切 (澄脂開三)
- (7) 鮐 (3.12ウ <又音>、鮐海魚也) [本] 土來切 (透咍開一)
- (8) 驪 (3.45才、駢驪駢駢駢駢駢駢) [本] 俱位切 (見至合三) 又 居追、舉羣二切
- (9) 綺 (2.18才) [本] 丑飢切 (徹脂開三) → 2.2.1.(3)
- (10) 滓 (2.16ウ、…紬之尤麤者曰絳滓滓所抽也) [本] 阻史切 (莊止開二)、反切上字「則」は「側」(莊母字)の誤りか。
- (11) 食 (3.1ウ、粟食縣官帶金銀) [本] 羊吏切 (羊支開四) 又 乘力切
- (12) 喜 (1.14ウ、勉力勞之必有喜) [本] 虛里切 (曉止開三)。* 喜 [本] 許記切 (曉志開三) cf. 段玉裁『說文解字段氏注』
- (13) 穰 (3.38ウ、穰卽穰也亦名爲桶) [本] 所追切 (生脂合二)
- (14) 鍾 (3.31ウ) [本] 直垂切 (澄支合三) 又 馳偽切 → 2.2.1.(3)

蟹 撮

			祭開	
來			力世 厲 4.20才	
精			音祭 稜 2.20才	
生			所例 殺 3.18ウ	
昌 書			充制 癒 4.8才 式制 貫 2.17才 音世 貫 2.17才	

			祭合	
知			丁衛 啜 3.42才	
于			音衛 榘 4.17ウ	

臻 撮

	眞開臻	軫開	震開	質開櫛
幫甲 並甲	音賓 濱 4.37才	頻引 牝 3.47ウ 音牝 牘 3.29才		音畢 穽 2.27才
明甲 乙	莫賓 {轉} 3.33才 武巾 珥 3.18ウ	。広韻「珥」1:作る		

來			里刃 蘭 ^{3.14ウ}	音栗 麋 ^{4.6ウ}
知			。広韻「産」に作る	竹乙 屋 ^{1.18ウ}
澄				知栗 銍 ^{3.3オ}
				持栗 紕 ^{2.27ウ}
				音秩 紕 ^{2.27ウ}
精			子燼 緡 ^{2.14ウ}	
心			息刃 迅 ^{4.6オ}	
			音信 訊 ^{4.26ウ}	
邪			徐刃 蓋 ^{4.16オ}	
莊				側乙 櫛 ^{3.16オ}
生			。広韻「蟲」に作る	音瑟 虱 ^{3.16オ}
章		之忍 軫 ^{3.2オ} ^{3.34オ}		
		音軫 診 ^{4.25ウ}		
書	音身 腫 ^{3.28オ}			
常	音辰 麋 ^{4.6オ}	時忍 腎 ^{3.28ウ}		
日			音刃 韌 ^{2.30ウ}	
羊	以人 腫 ^{2) 3.28オ}	余忍 韌 ^{3.36ウ}		音逸 佚 ^{1.16ウ}
		音引 釗 ^{3.2ウ}		
見乙			居覲 韌 ^{3) 3.36ウ}	
			居饗 韌 ^{4) 3.36ウ}	
羣乙			其乙 媿 ^{1.39ウ}	

曉乙			○広韻「𦵏」に作る	許乙 𦵏 2.10ウ
影甲	音因 𦵏 3.35ウ			

	眞合諄	軫合準	震合稕	質合術
來	音倫 綸 2.18ウ			
徹	丑倫 椿 3.43ウ			
精				子律 卒 3.46才
心	音荀 洵 2.4才	息允 筭 2.13才		
邪	音巡 紉 2.28才 馬川 4.22才			
章		之允 純 2.28才		
船	順倫 純 ⁵⁾ 2.12ウ			音述 秣 2.19ウ
常		豎尹 盾 ⁶⁾ 3.29ウ		常出 術 ⁷⁾ 4.31ウ
見甲				音橘 縞 3.10才
溪甲	丘倫 困 3.38才			
羣甲	俱倫 縶 ⁸⁾ 4.6ウ			葵橘 縶 ⁹⁾ 4.8ウ
乙		渠隕 菌 4.14才 4.16才 求閔 寤 4.31才		

(1) 櫛 (3.16才、櫛之大而羸所以理髮者謂之疏言其齒稀疎也…) [玄] 阻瑟切 (莊櫛閑二)

(2) 𦵏 (3.28才、𦵏夾脊肉也) [玄] 失人切 (書真閑三) 又丑人切。テキストには「𦵏音

身以人反」と見える。身〔広〕失人切

- (3) 軀 (3.36ウ、軀謂當胸者也)〔広〕余忍切(羊軀開四)又羊骨切
 (4) 軀 (3.36ウ)〔広〕居炊切(見炊開三) → 2.2.1.(4)
 (5) 純 (2.12ウ、綿繡縵純離雲爵<注>純…一作純…)〔広〕常倫切(常諱合三)
 又之尹切 → 2.1.1.(2) (傍証例)
 (6) 脣 (3.29ウ)〔広〕食尹切(船準合三)又徒摸切 → 2.1.1.(2)
 (7) 術 (4.31ウ)〔広〕食聿切(船術合三) → 2.1.1.(2)
 (8) 麋 (4.6ウ、麋即今之麋也)〔広〕居筠切(見真合三)
 (9) 獠 (4.8ウ、…亦謂之狂獠妄動作也)〔広〕況必切(曉貨開四)

山 攝

	仙開	獮開	線開	薛開
幫甲	音編 復 3.5才			彼列 別 ¹⁾ 4.23才
並甲	婢連 篋 3.5才			
	房連 便 2.17才			
	頻綿 便 2.30才			
明甲	音綿 樓 3.38ウ		。広韻「列」に作る	亡列 滅 3.17才
來				音列 洌 3.2才
知				丁劣 駭 3.42才
				音綴 酉綴 4.18ウ
娘		女展 輓 ²⁾ 2.14ウ		
精		卽淺 掬 3.17才		
		音翦 掬 3.17才		
心	音鮮 石延 2.14才			私列 薛 1.33ウ
				先列 藜 3.22ウ

昌				音掣 癰 4.8才
常	時連 鋌 3.29ウ	音善 鯨 3.12ウ		
日	而延 然 2.14ウ			
	音然 然 2.14ウ			
見甲				古薛 子 3.30ウ
溪甲			去戰 謹 4.16ウ	
			音謹 遠 4.17ウ	
疑甲				魚列 鏽 3.36才
影乙	於虔 焉 2.8ウ			

	仙合	獮合	線合	薛合
來		力轉 贊 3.23才		音劣 埤 3.41才
澄	音傳 椽 3.38ウ			
心				音雪 幛 2.16ウ
邪	音還 囚 3.5ウ			
章				之劣 頤 3.26ウ
常	市緣 篇 3.5才	上充 縛 1.36才		
	市專 篇 3.5才	時充 {縛} 3.29才		
	音遙 篇 3.5ウ	踰 3.29才		
		市充 {縛} 3.8才		
		音郭 {縛} 3.8才		

顏師古急就篇注音韻考

日		人交 湊 ³⁾ 2.15ウ	○広韻「湊」に作る	
羊	音縁 驚 4.4才		七絹 縁 3.2ウ 3.31才	音悅 説 1.34ウ
	○驚 4.4才	○広韻「驚」に作る	悅絹 縁 1.27ウ	
見甲			吉掾 絹 2.14ウ	
羣乙	巨貧 捲 3.27ウ			
	拳 3.27ウ			
	音權 拳 1.33才			
曉甲				音威 撼 ⁴⁾ 3.17才
子			于眷 院 3.37ウ	
			于倦 援 3.39ウ	

- (1) 別 (4.23才) [広] 皮列切 (並薛開三) 又方列切 → 2.1.2. (2.1.) a.
 (2) 輶 (2.14ウ、黃氏曰扞繒石也) [広] 女箭切 (娘線開三) 又知演切
 (3) 湊 (2.15ウ、靡潤輕湊也) [広] 「湊」乃管切 (泥緩合一) 又奴亂切
 (4) 撼 (3.17才、揃撼謂髻拔眉髮也蓋去其不齊整者) [広] 亡列切 (明薛開三)

效 撮

	宵	小	笑	
幫乙	彼驕 鏹 3.35ウ			
滂甲		敷沼 縹 2.14才		
並甲			頻妙 剽 ¹⁾ 4.29才	
乙		平表 蘆 2.30ウ		
來			力召 燎 3.2ウ	

			療 4.10 ^ウ 稊 4.3 ^ウ	
澄	直遙 朝 4.33 ^ウ	音兆 翔 3.45 ^ウ		
精	子消 鏖 3.2 ^ウ			
清	此遙 篠 4.28 ^ウ		七召 篠 4.28 ^ウ	
	千宵 鈇 3.42 ^ウ	○広韻「鏖」に作る		
從			音譙 鏖 3.2 ^ウ	
昌		尺沼 𪗇 2.25 ^ウ	昌繞 𪗇 ²⁾ 2.25 ^ウ	
書	式昭 搖 ³⁾ 3.26 ^ウ		式邵 少 3.20 ^ウ 3.47 ^ウ	
羊	餘招 陶 4.24 ^ウ		失照 少 4.23 ^ウ	
	音遙 輶 3.32 ^ウ		音耀 鷄 4.2 ^ウ	
	鉤 3.3 ^ウ			
見乙	音驕 鷄 3.47 ^ウ			
羣甲	渠遙 翹 2.13 ^ウ			
乙	渠驕 鑄 3.4 ^ウ			
	音喬 鑄 3.4 ^ウ			
影甲	一遙 要 2.25 ^ウ			
乙		於表 𪗇 1.33 ^ウ		

(1) 𪗇 (4.29^ウ) [左] 符齊切 (並宵開四) 又匹妙切 → 2.1.2. (2.2.) b.

(2) 𪗇 (2.25^ウ <一音>、…今人通以熟米麥爲之𪗇) [左] 尺沼切 (昌小開三)

- (3) 搖 (3.26才、簪一名筓簪即步搖也) [ㄋ] 餘昭切 (羊宵開四)。反切上字「式」は「弋」(羊母字)の誤りか。

假 攝

	麻開	馬開	禡開	
精 從	音嗟 差 2.23才		材夜 藉 3.37才	
章			之夜 炙 3.23ウ (2.19)	
書 羊	音奢 餘 2.17才 弋奢 斜 3.11ウ		柘 1.26才 傷夜 貰 ¹⁾ 2.17才	

- (1) 貰 (2.17才) [ㄋ] 時夜切 (常禡開三) ヌ舒制切 → 2.1.2. (2.1.) e.

梗 攝

	清開	靜開	勁開	昔開
幫甲 滂甲 並甲		卑盈 并 2.11才 必郢 屏 3.40ウ		必亦 壁 ¹⁾ 3.39才 音壁 辟 1.17ウ 3.19才 匹亦 僻 ²⁾ 3.40ウ 頻亦 擗 4.18才 扶亦 辟 4.27才
来	力呈 令 1.21ウ 3.23才 4.33ウ			
知	音貞 楨 3.39ウ			

澄	直良 醒 3.22ウ			
精	音精 菁 2.23ウ			音積 鯖 3.13才
清				七亦 刺 4.10ウ
從			才性 靜 3.17才	。広韻「淨」に作る
心	思營 駢 3.45才			
邪	辭盈 錫 2.24ウ	。広韻、明本など 「錫」に作る		
生		所領 省 2.1ウ		
船				食亦 射 3.19才 4.18才
書			。広韻「奘」に作る	式亦 奘 1.33ウ
常	音成 盛 3.2ウ 3.7才 4.17才 4.33ウ			
羊	成 1.21ウ			音亦 液 1.31才
見甲		居郢 頸 3.27才		
曉甲			休正 訶 4.30才	

	庚開	梗開	映開	陌開
幫乙		音丙 兩 1.39才 枋 ³⁾ 1.39才	音柄 兩 1.39才 枋 ⁴⁾ 1.39才	
見乙	音京 康 4.6ウ	音景 境 4.34才		
	音荆 整 3.12ウ	音警 整 3.12ウ		
溪乙				去遂 綸 2.18才

疑乙				{絃} 2.18才 宜戟 綖 2.18才 音逆 綖 2.18才
----	--	--	--	---------------------------------------

- (1) 壁 (3.39才) [広] 北激切 (幫錫開四) → 2.2.1. (5)
- (2) 僻 (3.40ウ、屏僻宴之名也) [広] 普擊切 (滂錫開四) 又芳辟切
- (3) 祊 (1.39才、兩勝籍 (地名)) [広] 甫盲切 (幫庚開二)。師古注には、「兩一作祊音柄又音丙」と見える。
- (4) 祊 (1.39才、cf. (3)) [広] cf. (3)

會 撮

	蒸開	拯開	證開	職開
來	音凌 綾 2.15才			
徹				丑力 飭 4.20才
精				音卽 鯽 3.13才
從	疾陵 絳 2.17才			
生				音嗇 蓄 2.21ウ 音色 轄 3.36ウ
章				之七 炙 ¹⁾ 3.23ウ
昌			尺證 稱 3.31ウ	
船	音繩 驂 3.46才		書悉 勝 1.33ウ 1.39才	
書			以證 媵 3.13ウ	音七 掖 3.35ウ
羊				

(1) 炙 (3.23ウ) [広] 之石切 (章音開三) 又之夜切 → 2.2.2.(2)

深 摂

	侵	侵	沁	緝
幫乙		筆錦稟 3.1ウ		
知	竹林 樵 3.2才			竹立 繫 4.26才
清 邪	村林 驚 ^リ 3.9ウ 音尋 鐔 3.30才			音習 褶 2.26才
生	山林 參 4.15才			色入 釵 3.30才
章 昌 日 羊	之林 鍼 2.27ウ 箴 2.27ウ 4.10ウ 斟 1.28ウ 音壬 任 1.20ウ 音淫 鐔 3.30才	尺審 藩 3.48才	章衽 枕 3.14才 人禁 衽 2.26ウ	
見乙 羣甲 乙 影乙	其今 苓 4.11ウ 音琴 苓 4.11ウ	於錦 飲 4.36ウ	。広韻「鷓」に作る	音急 汲 3.10才 鉅立 鷓 4.3才 音及 鷓 4.3才

(1) 𩇛 (3.9ウ) [玄] 昨淫切 (從侵聞四) 又昨鹽、徐林ニ切 → 2.1.2. (2.2.) e

咸 攝

	塩	琰	豔	葉
幫乙		悲儉 𩇛 4.32ウ		
來	力詹 鎌 3.3才 音廉 幟 3.15才 筴 3.15ウ	良冉 斂 3.43ウ		
徹 澄 娘	敕淹 鈎 ¹⁾ 3.4才			直輒 腭 3.23才 尼輒 躡 1.13才 女輒 聶 1.34才 金聶 3.44ウ
精 清 從	子廉 [。] 鐵 3.43ウ 音潛 𩇛 3.9ウ	。玄韻「鐵」に作る 自琰 𩇛 3.10ウ	七豔 𩇛 3.10ウ	
昌 羊	昌瞻 檐 2.26才 昌占 檐 2.27才 余廉 閤 1.36ウ		尺占 檐 2.26才	
羣甲	巨廉 鈐 3.3才 其沾 鈎 3.4才	其閃 檢 ²⁾ 3.10ウ		

乙	巨淹 鉗 _{4.27才}		
---	-----------------------	--	--

- (1) 鉗 (3.4才, 鉗以鐵有所鑷取也) [本] 巨淹切 (牽塩開三) 又 他協切
 (2) 檢 (3.10ウ) [本] 居淹切 (見琰開三) → 2.1.2.(2.1.)f.

III B 韻 類

通 攝

	東	董	送	屋
幫				方復 複 _{2.26才} 方六 幅 _{2.17ウ} 車幅 _{2.2才} 音福 復 ¹⁾ _{4.35才} 幅 _{3.33才} 音腹 復 _{3.1ウ} 音伏 鞞 _{3.35ウ}
並				
來	音隆 癰 _{4.10才}			
知			竹仲 中 _{4.19ウ} 陟仲 中 _{4.3才}	張六 竺 _{2.11才} 音竹 筑 _{3.20才}
從				音族 鋌 ²⁾ _{3.2才}
羊				弋六 鬻 _{1.33才}
見				居六 鞞 _{4.26ウ}

溪 曉 影	去弓 芎 ^{4.13} ㄘ			許六 畜 ^{3.46} ㄘ 於六 篡 ^{3.5} ㄘ
-------------	------------------------	--	--	---

	鍾	腫	用	燭
並	符容 縫 ^{2.27} ㄘ			
澄	丈龍 重 ^{1.29 2.26 3.36 3.39} ㄘ	丈勇 襁 ^{2.26} ㄘ		
精	子容 瘕 ³⁾ 4.8ㄘ 足容 縱 ^{3.15} ㄘ 音蹤 縱 ^{3.43} ㄘ		音縱 瘕 ^{4.8} ㄘ	
清	七容 從 ^{3.18} ㄘ 七恭 縱 ^{3.43} ㄘ			音促 趣 ^{4.27} ㄘ
從 邪	徐龍 襁 ⁴⁾ 2.26ㄘ		才用 從 ^{4.21} ㄘ	
章 書 日 羊	傷容 春 ^{3.40} ㄘ 音茸 韡 ^{3.36} ㄘ	之隴 種 ^{1.14} ㄘ	而用 韡 ^{3.36} ㄘ 音勇 踊 ^{4.17} ㄘ	之欲 屬 ^{1.15} ㄘ
羣 曉 影	音邛 塋 ⁴⁾	。玄韻「塋」に作る	於用 雍 ^{1.39} ㄘ	許玉 頊 ^{2.10} ㄘ

- (1) 復 (4.35才) [ㄨ] 房六切 (並屋開三) 又扶富切 → 2.1.2.(1)
- (2) 鍍 (3.2才, … 一曰鍍者小釜類即今所謂鍋也亦曰鍍鍍) [ㄨ] 作木切 (精屋開四) → 2.1.2.(2.1.) c. (傍証例)
- (3) 瘕 (4.8才 <ㄨ音>, 瘕瘕小兒之疾即今痢也) [ㄨ] 子用切 (精用合四)。『王二』 (cf. 登復等編『十韻彙編』) には「子用反又子容反」と見える。
- (4) 襠 (2.26ウ, 袴之兩股曰襠) [ㄨ] 直隴切 (澄腫合三) 又盧紅, 力董二切

止 撮

	微開	尾開	未開	
見		居豈 蟻 3.16才		
羣	音俟 柿 ^D 2.24才			
曉			許既 堅 3.39才	
影			於既 衣 4.18才	

	微合	尾合	未合	
滂		歟尾 斐 1.37才		
並		芳尾 菲 4.15才		
曉	許韋 揮 3.31才		扶味 費 1.25才	
			音肥 腓 3.29才	

- (1) 柿 (2.24才, 梨柿奈桃待露霜) [ㄨ] 方廢切 (滂廢合三)

遇 撮

	魚	語	御	
來	力居 馬廬 3.45才 音閭 臚 4.7才		了遽 癩 ¹⁾ 4.9才	
知 徹 澄	音據 樗 3.43才 {樗} 3.43才 直於 篠 3.4ウ	丁呂 褚 2.26才 丑呂 褚 2.1才 。玄韻「據」11作る 音佇 紵 2.18才	陟慮 箸 3.8才 大慮 箸 3.25才	
精	子閭 苴 2.23才			
崇 生	仕於 鈕 1.22才 所蘊 疏 3.15ウ		音助 麇 4.6才	
昌 羊	音與 予 2.19ウ	昌汝 處 4.27才 4.30才	弋庶 輿 3.5才 譽 4.11才 音豫 譽 4.11才	
見 溪 羣	音居 琚 3.18才 巨於 遽 3.4ウ 音渠 綰 ²⁾ 3.4ウ	居呂 筮 3.5才 丘呂 去 3.6才 邱呂 去 3.3才 3.17才 起呂 去 4.10才 丘舉 麤 2.25才 音巨 虞 2.13才 炬 4.32才	丘據 麤 2.25才	

疑		音禦 圀 4.24ウ	
---	--	------------	--

	虞	麌	遇	
幫	方于 拊 3.2ウ 跗 2.25ウ 方符 鈇 3.1ウ 音膚 鈇 3.1ウ			
滂		芳羽 拊 4.18才		
並		扶羽 腐 4.11ウ	音附 鮒 3.12ウ	
明	音無 母 1.35才 蕪 2.23ウ	音舞 庶 3.38才 {律無} 3.38ウ		
來		力羽 僕 1.24才		
初	初俱 芻 3.48才			
章		止矩 {絢} 3.24ウ 音主 塵 4.6ウ		
常	市朱 投 3.31ウ 爻 3.31ウ			
日			音孺 孺 ³⁾ 2.25ウ	
羊	弋朱 綸 2.26才 音踰 綸 2.26才 音俞 綸 3.45ウ	音度 甌 3.41才		

見		音矩 橋 3.29ウ	
溪		丘羽 齒 2.25ウ	
羣		其羽 寧 2.30ウ	
疑		牛羽 慶 4.6ウ	
于	音于 等 3.20才	王矩 萬 1.42才	
		音禹 瑞 3.18ウ	

- (1) 瘰 (4.9才, 瘰癧血之病也) [ㄨ] 依倨切 (影御開三)
- (2) 篠 (3.4ウ <又音>, …織章而麤文者篠篠也) [ㄨ] 直魚切 (澄魚開三)
- (3) 襦 (2.25ウ, 短衣曰襦, …) [ㄨ] 人朱切 (日虞合三)

蟹 攝

			廢	
曉			許穢 喙 4.1才 4.12ウ	
影			音穢 薺 2.27ウ	

臻 攝

	欣	隱	焮	迄
羣			其靳 近 3.29才	
			巨靳 近 4.21ウ	
疑	魚斤 斷 3.27才			
	音垠 斷 3.27才			
影			於靳 隱 3.35ウ	

	文	吻	問	物
幫				音弗 𪛗 2.27才
並	扶云 𪛗 3.21才 𪛗 3.46才 𪛗 3.44才 𪛗 1.23才	房吻 𪛗 3.23才		
明	音文 𪛗 4.3才			音勿 𪛗 2.23才 𪛗 4.15才
見			居運 𪛗 3.43才	居物 𪛗 4.3才 居勿 𪛗 1.32才
羣	音羣 𪛗 2.25才			
曉	許云 𪛗 2.16才 𪛗 3.6才 𪛗 4.12才 𪛗 2.21才			
影	音勳 𪛗 2.16才	於粉 𪛗 4.9才 𪛗 2.18才	於問 𪛗 3.24才	於物 𪛗 2.14才

山 攝

	元開	阮開	願開	月開
見	居言 𪛗 3.46才			
溪		丘偃 𪛗 3.35才		

羣		渠偃 鍵 3.44	
疑	音言 羣 3.97	魚偃 羣 3.97	
	音原 羣 3.46		
曉	音許 羣 ²⁾ 3.45		
影		音偃 羣 4.1	

	元合	阮合	願合	月合
幫			方萬 販 2.17	
滂	孚袁 旻 3.34		敷萬 嬖 4.57	
	音翻 反 4.26			
並	扶元 蕃 2.3			音伐 {骸} 3.30
	音煩 蕃 3.46 4.35			
明			音萬 曼 1.18 蔓 2.23	勿發 穢 2.29
見				音厥 瘕 4.9 蹶 2.29
疑	音元 芑 4.12			
曉	許元 護 1.37			
影	於元 莞 4.15	於阮 苑 4.12 音苑 {瘳} 3.28		
于				于月 絨 2.28 音越 絨 2.28

- (1) 𨔵 (3.35才、棠踪也在車兩旁以蹂距𨔵使不得以崎也) [広] 盧偃切 (曉阮開三)
 (2) 𨔵 (3.45ウ、𨔵之特者爲𨔵謂劇之也) [広] 居竭切 (見月開三)

宕 攝

	陽開	養開	漾開	藥開
滂	敷方 妨 1.35才			
明	音亡 采 3.39才			
來	音涼 輦 3.32ウ		音諒 𨔵 4.9ウ	
知		竹丈 長 1.24ウ 2.6才 3.1才 4.32才	音帳 脹 4.7才 痕 4.8才	竹畧 著 2.27才 2.30才 。広韻「略」に作る
澄	音長 腸 3.29才			直略 著 1.15ウ
精	資良 將 1.34才		子亮 將 3.27ウ	
清				千弱 𨔵 1.23才
心	音襄 鑲 3.29ウ			
邪	音祥 洋 2.25才	音象 豫 3.17才		
初	初羊 創 4.10才	楚掌 上 ¹⁾ 4.39才		
章	音章 鄣 3.39ウ 𨔵 4.6ウ		之亮 障 3.40才	音勺 斫 4.28才
書			式亮 向 1.20才 2.10ウ	
			音鉤 向 2.10ウ	
日	人羊 攘 3.30才 音穰 𨔵 2.23ウ			而灼 𨔵 3.24才 如約 𨔵 3.14ウ

羊	音攘 鑲 3.29ㄡ 移章 楊 4.17ㄡ 音陽 楊 4.17ㄡ 音羊 陽 3.35ㄡ 金陽 3.35ㄡ	。広韻「陽」に作る		音弱 弱 3.24ㄠ 弋若 約 2.14ㄠ 燭 2.14ㄠ 音藥 藥 1.38ㄠ
見 溪 羣 疑 影 于	音姜 疆 3.35ㄡ 起良 羌 1.36ㄠ 4.37ㄠ 於良 央 1.23ㄡ 于方 援 ²⁾ 3.39ㄡ	其兩 强 2.25ㄠ		居勾 屈 2.30ㄡ 音虐 瘧 4.9ㄠ

	陽合	養合	漾合	藥合
溪	音匡 筐 3.6ㄠ			

- (1) 上 (4.37ㄠ, 遼東濱西上平岡) [広] 時掌切 (常養開三) 又時亮切
(2) 援 (3.39ㄡ, …垣援也人所依阻以爲援衛也) [広] 雨元切 (于元合三) 又王眷切

流 攝

	尤	有	宥	
幫			分副 復 3.1ㄡ 音富 復 3.1ㄡ	
並	音浮 鷗 4.3ㄠ		扶又 復 4.35ㄠ	

明	莫浮 整 3.1ウ 音牟 整 3.1ウ 3.31才 銖 3.31才	。広韻「整」に作る		
來	音雷 駟 3.45才	。広韻「留」に作る	力又 厝 3.39才 力救 颶 1.20才	
知	張留 軒 3.32ウ 竹留 整 1.18ウ	知有 肘 3.27才		
澄	音儔 紬 2.16才		丈救 胃 3.31ウ 籀 1.16ウ	
清	千由 鮎 ¹⁾ 1.16ウ 音秋 箴 4.28才			
從	在由 畚 3.29ウ			
崇			仕救 駟 3.45ウ 馬 ²⁾ 3.45ウ	
生	所留 銖 3.30ウ	。広韻「銖」に作る		
常		音受 綬 2.18ウ	上救 舊 2.16ウ	
日	音柔 揉 3.33才 音蹂 揉 3.33才	如紂 揉 ³⁾ 3.33才		
見			音救 廢 3.40才 音究 灸 4.10ウ	。広韻「廢」に作る
溪		丘柳 糗 2.25ウ		

	音 𪔐 𪔐 3.2才 脰 3.22ウ			
明	音 迷 𪔐 4.7才			
端	的齊 𪔐 2.27才 音低 𪔐 3.45ウ	丁禮 抵 4.26ウ 都禮 𪔐 3.45ウ 音 𪔐 𪔐 2.16才 。玄韻「體」に作る	音 帝 𪔐 2.15ウ 吐計 𪔐 2.24ウ 𪔐 3.17才	
透				
定	徒奚 𪔐 2.15ウ 音題 𪔐 2.16才		徒計 𪔐 4.27才	
泥	音泥 𪔐 2.22ウ			
來	力令 𪔐 3.42才 郎令 𪔐 3.45才		郎計 𪔐 3.14才 音戾 𪔐 2.14才	
從		齊禮 齊 2.23才	材詣 齊 3.17ウ	
日	若𪔐 𪔐 2.22ウ			
見	工奚 𪔐 3.38ウ 𪔐 3.26才			
疑			音詣 𪔐 3.34ウ	
匣	音奚 𪔐 1.17ウ			

(1) 𪔐 (3.34ウ、蓋轉俚倪柅縛棠) [玄] 并弭切(幫紙開四)。* 𪔐 [玄] 匹詣切(滂寒開四) cf. 朱駿成『說文通訓定聲』。

(2) 𪔐 (3.28ウ) [玄] 房脂切(並脂開四) → 2.2.2.(3)

- (3) 綿 (2.15ウ) [広] 杜奚切 (定齊開四) → 2.1.2.(2.1.)b.
 (4) 羝 (3.45ウ <又音>、羝羊之牡也) [広] 都奚切 (端齊開四)
 (5) 椽 (2.24ウ) [広] 特計切 (定齊開四) → 2.1.2.(2.2.)d.
 (6) 髻 (3.17才、摘拭謂髻拔眉髮也蓋去其不齊整者) [広] 思積切 (心音開四)
 (7) 倪 (3.34ウ、蓋韓俾倪扼縛棠) [広] 五稽切 (疑齊開四)。* 睨 [広] 五計切 (疑齊開四) cf. 朱駿成『說文通訓定聲』

山 攝

	先開	銑開	霰開	屑開
幫 明	音邊 𪛗 3.1ウ			音蔑 𪛗 4.9ウ
端 透 定 泥		音典 𪛗 4.15ウ 他典 𪛗 3.2才 乃典 𪛗 3.10ウ	音殿 𪛗 3.48才	
清			千見 倩 1.41才	千結 扶 2.11才
見 溪	音堅 𪛗 4.7才 口堅 𪛗 4.31ウ 音牽 𪛗 4.31ウ 𪛗 4.6ウ		苦見 𪛗 4.31ウ	音結 𪛗 4.15ウ 苦節 𪛗 3.3才
疑 曉 影	五賢 𪛗 4.32才 烏賢 𪛗 1.33ウ 音咽 𪛗 3.28才		倪甸 𪛗 4.32才 許見 𪛗 3.35ウ 一見 𪛗 3.28才	五結 𪛗 3.27才

	先合	銑合	霰合	屑合
見	工玄 涓 ^{1.35ウ} 1.39丁		古縣 謹 ^{4.30才} 音明 謹 ^{4.30才}	古穴 玦 ^{3.18ウ}
曉	火玄 鉤 ^{3.3ウ}			
匣	音玄 縣 ^{2.13才}			

(1) 黹 (3.35ウ, ...在頸曰黹在掖曰黹...) [広] 呼典切 (曉銑開四)

效 撮

	蕭	篠	嘯	
定	大堯 跳 ^{4.18才}			
來	洛堯 料 ^{3.21才} 音遼 鵲 ^{4.3ウ} 音聊 廖 ^{1.18才}	力鳥 初 ^{2.26ウ} 音了 初 ^{2.26ウ}		
見		古鳥 絞 ^{2.26ウ}	工吊 徽 ^{4.6才} 工鈞 徽 ^{4.25ウ}	
影		鳥了 萼 ^{4.15才} 音杏 萼 ^{4.15才}		

梗 攝

	青開	迥開	徑開	錫開

幫 並 明	步丁 餅 3.9才		。宏韻「𦵏」に作る	音壁 𦵏 ¹⁾ 2.28才 莫歷 𦵏 ²⁾ 3.37才
定		大鼎 挺 4.28才 徒頂 町 3.41才	徒經 錠 3.2ウ	音敵 荻 2.23才
來	音苓 圀 4.24ウ 音零 輪 3.34才 冷 1.42ウ 伶 1.42ウ 苓 3.37才 音靈 齡 4.12才			
心				先狄 絳 2.17才 先歷 析 1.18才
見 匣	胡經 銓 3.3ウ 鉏 3.4才		胡定 脛 2.26ウ 尸定 脛 3.29才	音激 壑 3.40才 刑狄 檄 4.30ウ

(1) 𦵏 (2.28才) [本]「𦵏」必益切(幫昔開四) → 2.2.1.(5)

(2) 𦵏 (3.37才、革鞢車籍之交革也一曰重革之𦵏…) [本]莫結切(明屑開四)

咸 撮

	添	忝	榛	怙

透 定				他協 革 3.36ウ 徒類 褶 2.26ウ 音牒 褶 2.26ウ
見 匣				工篋 扶 3.8ウ 音類 茨 4.13ウ 音協 俠 2.3ウ